

### Ⅲ 各障がい種別教育研究会活動報告

## 視覚障がい教育研究部会

### 1 研究主題

「視覚障がいのある幼児児童生徒に対する指導・支援の在り方について研修し、視覚障がい教育の充実発展と教員の資質向上を図ると共に、各学校や関係機関との情報の共有化を図る。」

### 2 主な研究・活動の内容

事業内容	事業計画の概要		
	年 月 日	場 所	実 施 内 容
研 究 会 及 び 研 修 会	R7年4月～7月	明星視覚支援学校	○基本研修（歩行、点字、眼疾患、弱視教育、進路、情報機器等）
	R7年4月2日（水）	明星視覚支援学校	○校内研修・研究開始
	R7年4月22日（火）	明星視覚支援学校	○第1回視覚障がい教育研究部会代議員会 ○合同研修会（授業参観、指導・支援）
	R7年7月29日（火）	明星視覚支援学校	○視覚障がい教育研究部会 研修会
	R7年7月31日（木） ～8月1日（金）	明星視覚支援学校	○全日本盲学校教育研究大会東京大会 第1分科会発表担当
	R7年8月21日（木）	延岡市	○あいあい教室（エンクロス延岡）
	R7年10月17日（金）	明星視覚支援学校	○あいあい教室（本校）
	R7年11月14日（金）	明星視覚支援学校	○九州地区盲学校教育研究会 佐賀大会
	R7年12月25日（木）	明星視覚支援学校	○教材教具展示会（本校）
	R8年2月26日（木）	明星視覚支援学校	○第2回視覚障がい教育研究部会代議員会
	R8年3月2日（月）	明星視覚支援学校	○研究報告会
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 延岡、日向、サテライト 5～3月 月1回</li> <li>○ 宮大サテライト(宮崎大学医学部附属病院) 4～3月 月1回</li> <li>○ 都城サテライト 年2回</li> <li>○ 日南サテライト、小林サテライト 年1回</li> <li>○ 実践授業（本校全職員） 7月～12月に実施</li> </ul>	
その他	○ 本年度、第100回令和7年度全日本盲学校教育研究大会（全日盲研）東京大会「第1分科会（学習指導Ⅰ A：文系）」で研究発表を行った。		

#### (1) 研修会

愛媛県立松山盲学校の鷲野・沖田両教諭を講師に迎え、「視覚障がい児のキャリア教育と学力向上」をテーマにオンラインにて研修会を実施した。進学指導の具体例を通し、生徒の希望する進路実現には、学校としての組織的・計画的取組と、生徒自身が自分の見え方と必要な支援について説明できる力を育てることが必要であることを示され、大変参考になった。

#### (2) 弱視特別支援学級との合同研修会

今年度は延岡市立東小学校に弱視特別支援学級が開設され、本校で合同研修会を実施した。小学部の授業参観を行った後、弱視児童への学習環境や視覚支援補助具についての意見交換を行った。合同研修会後も本校コーディネーターが月に1回巡回相談を行い連携をしている。

### 3 主な研究成果

今年度は、新たに弱視特別支援学級1学級、弱視通級指導教室3学級と本校職員を合わせた会員での活動であった。弱視特別支援学級、通級指導教室等でも活用できる、視覚支援補助具（書見台、音声タイマー・電卓、オセロ）、文房具（シャープペンシル1.3mm、魔法のザラザラ下じき）、書籍（新・視覚障害教育入門）の購入を行い、活用の仕方について広めることができた。

## 聴覚障がい教育研究部会

### 1 研究主題

「聴覚障がい教育の資質向上に向けて」

### 2 主な研究・活動の内容

#### (1) 年間活動報告

期日	活動	会場
6月17日	総会 運営委員会	都城さくら聴覚支援学校 (リモート)
7月30日	夏季研修会	宮崎県建設技術センター
10月16、17日	第59回 全日本聾教育研究大会長崎大会	長崎県立ろう学校 他
2月中旬	運営委員会	都城さくら聴覚支援学校 (リモート)

#### (2) 聴覚部会研修会について

- 主題 「子どもの学ぶ意欲を高め、可能性を広げる ICT の活用」

グループ別協議について

##### 【幼稚部】

発達段階が乳幼児期にある幼児・児童への ICT 活用

##### 【小学部、中学部、高等部】

デジタルツールによる学び合いの促進～聴覚支援学校における ICT 活用の可能性～

##### 【寄宿舍】

寄宿舍での ICT 活用の在り方

### 3 主な研究成果

- 夏季研修会では、都城さくら聴覚支援学校と延岡しろやま支援学校（聴覚障がい教育部門）の両校が宮崎市内の会場に参集し、対面にて協議を行った。対面で実施することで、職員間での情報共有を活発に行うことができた。協議については、主に学部ごとのグルーピングを行い、それぞれの学校での実践や ICT を活用する上でのメリット、デメリットについて協議し、聴覚障がいのある子どもたちが学びを深めていくためにどのような活用ができるのか、活発な意見交換を行うことができた。
- 難聴・言語部会とも連絡を行い、互いの会に参加できるように案内を送付し合うことができた。後日いただいた講演会の資料については、それぞれの学校内で共有させていただいた。
- 今年度も事務局・会計担当と研修担当を、延岡しろやま支援学校（聴覚障がい教育部門）と都城さくら聴覚支援学校で分担して運営を行った。話し合いを経て、令和8年度まではそれぞれができる形での運営を行うこと、令和9年度以降の運営については、お互いの状況を考慮しながら、運営を工夫していく必要がある。

# 知的障がい教育研究部会

## 1 研究主題

「知的障がい教育研究部会研究大会について」

## 2 主な活動の内容

### (1) 年間活動報告

期日	会議内容及び活動概要	会場
6月20日(金)	第1回理事会及び総会(オンライン)	各学校
11月7日(金)	第2回理事会(オンライン)	各学校
2月6日(金)	第3回理事会予定(オンライン)	各学校

### (2) 全国大会、九州大会等への参加及び協力

#### ① 第64回全日本特別支援教育研究連盟全国大会「北海道大会」

期日：令和7年10月23日・24日(参集型で開催)

分科会提案：第4分科会 通級による指導

「一人一人の特性に応じた指導の実現に向けた通級指導と通常学級の連携」

(提案発表者) 西都市立妻北小学校 教諭 白水亜利紗

全特連功労者表彰：三股町立三股中学校 指導教諭 小野智弘

#### ② 第59回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「長崎大会」

期日：令和7年8月1日(参集、オンデマンド配信による開催)

分科会提案：第2分科会 各教科等の指導(中学校・高等学校段階)

「学習内容の系統性や(他教科等との)関連性を踏まえた教科別指導のあり方」  
～英語科における指導方法の工夫とエリアサポート体制を生かした指導の充実に向けて～

(提案発表者) 小林市立細野中学校 教諭 曾木玲菜

第3分科会 各教科等を合わせた指導

「ふれあい業間交流を取り上げた生活単元学習の実践～「授業シート」を活用して～」

(提案発表者) 小林こすもす支援学校 教諭 山田慧美

(司会者) 小林こすもす支援学校 教頭 岡田直幸

(指導助言者) 宮崎県教育庁特別支援教育課 指導主事 齊藤志保

### (3) 知的障がい教育研究部会研究大会の開催

- 隔年開催のため、本年度の開催はなし

## 3 主な研究成果

本年度もオンラインで年3回の理事会を実施した。研究大会については、令和2年度から隔年開催になっており、今年度は研究大会準備期間として、次年度大会担当の宮崎県立児湯るびなす支援学校を中心に準備を進めている。11月に実施した第2回理事会において、児湯るびなす支援学校が次年度研究大会の概要説明を行い、開催方法や内容等についての検討を行った。前回大会の運営においては、二次案内の配布方法や申し込み方法等に課題があったので、今後、県特研連事務局や研究大会担当校と連携を図り、次年度研究大会のスムーズな運営、大会の充実に向けて準備を進めていきたい。

## 肢体不自由教育研究部会

### 1 研究主題

新しい時代の肢体不自由教育の充実を目指して

### 2 主な研究・活動の内容

#### (1) 活動内容

本部会は、清武せいりゅう支援学校と延岡しろやま支援学校（肢体不自由教育部門）で組織され、肢体不自由教育を推進し、会員の資質の向上を図ることを目的としている。この目的を達成するために、研究大会の開催や肢体不自由教育に関する調査研究等を行っている。

期日	肢体不自由教育研究部会事業	その他の関連事業
5月		30日(金) 九肢研(佐賀大会)役員会及び総会<オンライン開催>
6月	6日(金) 第1回肢体不自由教育研究部会 理事会・代議員会<オンライン会議>	
7月	28日(月) 第27回肢体不自由教育研究大会	
8月	25日(月) 第2回肢体不自由教育研究大会理事会・代議員会 <オンライン会議>	
10月		22日(水)~24日(金) 第62回九州地区肢体不自由教育研究大会(佐賀大会)
11月		19日(水)~21日(金) 第71回全国肢体不自由教育研究協議会(北海道大会)
1月	16日(金) 第3回肢体不自由教育研究部会 理事会・代議委員会<場所 清武せいりゅう支援学校> 部会誌第30号発行	

#### (2) 第27回肢体不自由教育研究大会

本年度も、オンラインによる研究大会を実施した。昨年度のアンケートより学びたいというニーズの高かった「重度重複障がいのある児童生徒への教科学習の考え方と実践」について、長崎県立虹の原特別支援学校校長の分藤賢之先生に講話をしていただいた。清武せいりゅう支援学校を会場とし、オンラインで会場と清武せいりゅう支援学校以外の受講者の各会場を中継して実施した。本会の会員103名に加え、外部から、公立小中学校11名、その他県内特別支援学校81名の合計195名が参加した。

### 3 主な研究成果

両校以外の県内特別支援学校や小中学校にも案内要項を配布したことで、肢体不自由教育に関りがあったり、興味をもっていたりする多くの教員が肢体不自由教育の専門性を高める機会を得ることができた。また、今年度は講師の先生に来県していただき、先生方の前で講話していただいたことで、熱気を感じる研修会になったのではないかと思う。また、専門性の向上に向け、児童生徒の教材の購入等、肢体不自由教育の向上を図ることができた。

今後も、会員のニーズに合わせた研究大会の実施等、肢体不自由教育における専門性の向上を目指して活動していきたい。

## 病弱教育研究部会

### 1 研究主題（テーマ）

「病弱特別支援学校における個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて」

### 2 主な研究・活動の内容

#### (1) 年間活動報告

期 日	事業内容
5月1日	病弱教育研究部会理事会
6月3日	病弱教育研究部会理事会
5月～7月	理論研修 ・「学力向上の取り組み」基礎的研修シリーズの視聴 ・「学校におけるICTを活用した学習場面」校内研修シリーズの視聴
8月7日～29日	全病連青森大会（病弱教育研究部会 夏期研修会として参加） 記念講演、特別講演、特別企画、分科会、
8月21日	九病連大分大会（病弱教育研究部会 夏期研修会として参加） 講演Ⅰ、講演Ⅱ
9月～1月	個人およびグループ研修 授業検討・実践および実践事例報告書の作成
2月上旬	病弱教育研究部会理事会

#### (2) 研修会報告等

本年度は、全病連青森大会と九病連大分大会で「自立活動の授業における実態把握・分析、課題の抽出について～各ツールの有効的な活用～」をテーマに本校職員が発表した。今年度も前年度に続き、web上で動画や電子文書の配信での開催となり大会期間中、閲覧することができたため、多くの会員が大会に参加することができ大変意義深い研修となった。また、九病連大分大会はオンラインの開催の分科会では、ブレイクアウトルームで各学校との意見交換することができ、実情や取組等を知ることができた。

### 3 主な研究成果

本年度も「個別最適な学び」と「協働的な学び」をテーマに掲げ、校内研究に取り組んだ。本校は児童生徒が少人数であるため、特に「協働的な学び」に取り組むことが難しい。そこで、それぞれの学部で取り組み教科ごとにグループを作り授業研究を中心に行った。教師が意図的に協働的な学びができるように授業を組み立てることで、児童生徒が進んで話し合うことができたり、友達の意見を聞いて自分の考え方を改めて発表したりできるようになってきている。また、教師同士がお互いの授業を参観し、振り返ることで、複数の視点から授業作りを行うことができている。現在、大変有意義に研究を進めることができている。引き続き計画的に授業研究に取り組みながら、学校全体の授業力向上を図っていきたい。

## 情緒障がい教育研究部会

### 1 研究主題 (テーマ)

「未来に向けて 自分らしく生きる みやざきの子どもの育成」

### 2 主な研究・活動の内容

#### (1) 年間活動報告

事業名	期日	場所	内容
第1回研究会	4月18日(金)	宮崎南小学校	・年間事業計画検討 ・R10宮崎大会に向けた検討
第1回事務局会	5月22日(木)	宮崎南小学校	・年間事業計画検討
第1回理事会	6月5日(木)	宮崎南小学校	・総会決議 ・年間事業計画検討
第2回研究会	6月26日(木)	宮崎南小学校	・夏季研修会に向けて検討 ・R10宮崎大会に向けた検討
第3回研究会	7月2日(水)	宮崎南小学校	・夏季研修会に向けて検討
夏季研修会	7月28日(月)	佐土原総合 文化センター	・情緒障がい教育分科会(合同研修会)
第2回事務局会	9月18日(木)	宮崎南小学校	・R10宮崎大会に向けた検討 ・R7九州地区情緒障害教育研究大会 「大分大会」報告
第4回研究会			
通級担当教員研修会	10月2日(木)	オンライン研修会 (ホスト宮崎南小)	・国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター総括研究員 井上秀和先生 講演
第5回研究会	11月4日(火)	宮崎南小学校	・年間事業まとめ
第3回事務局会	12月9日(火)	宮崎南小学校	・年間事業のまとめ
第2回理事会	3月6日(火)	オンライン会議 (ホスト宮崎南小)	・年間事業のまとめ ・理事会まとめ(次年度の引継ぎ等)
第4回事務局会	3月11日(水)	宮崎南小学校	・本年度の反省(理事会を受けて) ・次年度の事業計画について
第6回研究会			

\* 7月22日14:00～・12月17日15:00～ R10年度九特連・九情研「宮崎大会」準備委員会発足のための打合せを行った。

### 3 主な研究成果

本部会の事務局拠点校を宮崎南小に設置し 4 年目となり、拠点校設置の良さを生かしながら、事務局員と連携を密にし、円滑な部会運営を図ることができた。

今年度も参集型による会議や Googlemeet を使用したオンラインの会議等、両方の良さを生かしたハイブリッドによる研修会などを開催した。

#### (1) 成果

夏季研修会は「教育的ニーズに応える特別支援教育の在り方」をテーマに、昨年と同様、他の研究部会と合同で開催した。綾小学校の大西淳教諭の実践発表「はじめての自由進度学習～特別支援教育の視点からのアプローチ～」や、宮崎県中央発達支援センター長、水野敦之氏による講話「発達障がいの特性と気になる行動への対応」の講話から、多くを学ぶことができた。

また、令和 9 年度令和 10 年度九州地区情緒障害教育研究会「鹿児島大会」の発表者との打ち合わせ、および、「宮崎大会」に向けた組織づくりや今後の予定についても協議を進めることができた。

さらに、通級担当教員研修会（オンライン）を今年度も開催し、国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター総括研究員である井上秀和先生に、通級による指導の在り方や具体的事例などの講演をしていただき、昨年同様に大変好評であった。

#### (2) 課題

自閉症・特別支援学級に在籍する児童生徒の増加傾向と通常の学級に在籍する児童・生徒の指導の困難さが増している状況は続いている。通級による指導を必要とする児童・生徒の割合も高まり、通級指導教室が増設されているが、担当する教員の専門性だけでなく、全教職員の指導力の向上を図る必要性を感じる。また、各学校が連携して指導と支援が行われるような支援体制の構築のための研修も必要だと思われる。

さらに、令和 10 年度の宮崎大会に向けても、見通しをもって準備を進めていきたい。

# 令和7年度 難聴・言語障がい教育研究部会 活動報告

## 1 研究主題

「子どもや保護者の多岐にわたる教育的ニーズに応える支援・指導の在り方」  
～ 人と関わる力を高める支援を通して ～

## 2 活動内容

期日	活動の概要	場 所
5月13日 (火)	第1回研修会 ・ 宮崎県難聴・言語障がい教育研究総会、専門部会 ・ 専門部会及び協議 ・ 情報交換会、地区別協議 ・ 全体会	新富町総合交流 センターきらり
6月26日 (木)	第2回研修会 ・ 九難言熊本大会発表検討会（南郷小 上村聡子 教諭） ・ 専門部会及び協議 ・ 「構音、調音」言語聴覚士 箕輪友英 氏 ・ 情報交換会 ・ 全体会	新富町総合交流 センターきらり
8月7日 (木) 8月8日 (金)	九州地区難聴・言語障害教育研究会熊本大会 ・ 総会 ・開会行事 ・全体会 ・ 記念講演（阿部 厚仁 氏） ・ 分科会（構音・吃音・言語発達・聴覚）提案・協議・講義	熊本市民会館 熊本市国際交流 会館
9月26日 (金)	第3回研修会 ・ 講義「吃音のある子どもの指導・支援」（牧野 泰美 氏） ・ 九難言熊本大会発表報告会（南郷小 上村聡子 教諭） ・ 九難言熊本大会各県代表者会報告 牧野 宏紀会長 ・ 全体会「令和8年度以降の本会の運営について」 ・ 専門部会、全体会	新富町総合交流 センターきらり
2月6日 (金)	第4回研修会 ・ 情報交換会（グループ協議） ・ 専門部会及び全体会	新富町総合交流 センターきらり

## 3 成果と課題

### (1) 成果

本年度も、昨年度に引き続き、講話・講演等を実施するとともに、会員同士の協議や情報交換を行うことができた。

8月には九州地区難聴・言語障害教育研究会熊本大会が開催され、本会からも発表者を選出し、実践発表を行うことができた。この発表に向けて、本研修会で発表者の研究内容を検討し、全体で研修を深めることができた。

第3回研修会では、国立特別支援教育総合研究所の牧野泰美氏を講師に招き、吃音についての専門性を高めることができた。

### (2) 課題

ことば・きこえの教室や難聴学級での指導は、児童1人1人の実態や課題に応じて進めるため、基本的な手立てや専門的な技術の習得が不可欠である。しかし、ことば・きこえの教室担当者の約4割が講師であり、経験年数の少ない担当者も多く、会の運営が困難な状況にある。この課題に対応するため、次年度から県教育委員会が主体となって、難聴・言語に関する研修が実施される予定である。

さらに、令和7年度末には本会を解散し、新たな組織（名称を宮崎県難聴・言語障がい教育研究会から、みやざき難聴・言語障がい教育研究会に変更予定）を発足させることを総会で決定した。これに向けて、円滑な移行と新組織での難聴・言語障がい教育の充実を図っていく。